



Collaboration City 21

社団法人 三原青年会議所新聞



2001年7月20日

発行(社)三原青年会議所  
編集/広報委員会  
三原市皆実4丁目8番1号  
(三原商工会議所内)  
TEL(0848)63-3515  
FAX(0848)62-1141  
インターネットアドレス  
http://www.tako.ne.jp/~mjc/  
Eメールアドレスmjc@tako.ne.jp

2001年三原JCスローガン

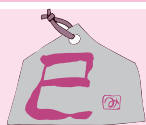
言行一致

今、JCメンバーとして...

今月号の記事

- 1面 やったね！三中の子どもたち！
- 2面 三原市基本構想策定審議会 一般公募委員にインタビュー
- 3面 広域まちづくり研究会レポート/エコショップ
- 4面 第26回三原やっさ祭り/他

みたか  
きいたか



小泉内閣への初の審判となる第十九回参議院選挙が、12日に公示され29日の投票日に向け選挙戦が始まった。この厳しい経済状況の中、小泉純一郎首相が掲げる「聖域なき構造改革」とその「痛み」をめぐる論争が最大の争点となる。各党・各候補者ともニュアンスの違う「改革」を訴えているが、私たちが有権者は主張の違いをしっかりと見極めることが大切である。わが広島県においては、定数2議席に対して6人が立候補し、激戦となりそうである。先の見えない景気の低迷のもとで迎えた参院選。地域経済が落ち込んでいるだけに、聖域なき構造改革の具体的な政策を期待する声が多い。閉塞感を打破する改革を国民は望んでいる。「人気」だけで実力が伴わなければいずれ国民の厳しい審判が下るであろう。閉塞感に満ちた状況の私たちは、「人気」と「実力」を兼ね備えた真のリーダーを望まずにはいられない。今回の参院選挙に私たちが有権者は、これからの日本、そしてわがまちの将来のビジョンを明確に示してくれる真のリーダーをしっかりと見極め、一票を投じなければいけない。なぜなら私たちの一票は次世代を担う子どもたちのためであるから...

# やったね！ 三中の子どもたち！ ～職場体験学習を通して～

地域



(皆実みどり幼稚園後藤先生)  
この職場体験学習は、学校から離れたところで一人になり自分を見つめ直すいい機会だと思えます。またこの事業を通して地域にいる次世代の子どもたちを私たち地域住民が教育していかなければいけないと思えます。ぜひ、継続して行ってほしいですね。

家庭

子ども

学校

子どもが家に帰ってきてこの職場体験のことをいろいろ話してくれました。私たち親が苦労をして働いていることが少しはわかってくれたみたい。普段は朝寝坊ですが、当日ははっきりいって朝早く起きていきました。

(中尾くん)  
大きな声であいさつするのが気持ちよかったです。お客さんからありがとうといわれたときはうれしかった。

(赤利さん)  
二日があっという間にすぎました。幼稚園の子どもたちの気持ちになって話をするのが難しかったけど、話が通じたときはうれしかった。

(三原第三中学校兼房先生)  
この事業を行う上で一番の不安は、2年生196人を受け入れてくれる職場がはたしてあるのかが不安でした。しかし、その不安も地域のさまざまな人たちの支えと協力があり実施にふみきることができました。この職場体験学習を通して子どもたちに働くことの喜びや厳しさを体験させ、自分自身の生き方や生活のあり方を考えさせる目的があります。また、地域の人たちと共に働き、話すことをとおして、自分も地域住民の一員であることを自覚させ、地域の人々との人間関係づくりが行われればと考えています。

去る7月11・12日の2日間、三原市立第三中学校の主催で「中学生職場体験事業」が実施されました。この事業は、第三中学校2年生196名が、三原市内の事業所にて実際に職場体験するものです。また、この事業は、「総合学習の時間」の一環として位置付けられ、生徒が将来に対して目的意識を持って主体的に行動する能力を育成することを目指そうというものです。

昨年、(社)三原青年会議所は広島大学附属三原中学校と共催で今回の事業と同じく中学生職場体験事業「わくわくWORKみはら」を実施しました。そして、今年、第三中学校で実施され、この事業の輪が今後市内各中学校に広がっていくことを期待します。職場体験事業を通して、子どもたちも、自分ひとりで生きているのではなく、学校・家庭・地域の人に見守られながら生きているんだとあらためて実感できたのではないのでしょうか。

## めざせ 「コミュニティスクール」!

21世紀型教育のあり方について私たち(社)三原青年会議所では、学校・家庭・地域が三位一体となって教育を行う必要性を主張しています。

これまで学校では、諸行事を行うたびに家庭や地域社会に対して、「交流」「参加」「連携」という言葉を用いて、協力や連携を呼びかけていました。しかし、その方法や手段は、学校からという一方通行的な方向性が強く、双方向的な流れができていない傾向が現われているように思います。

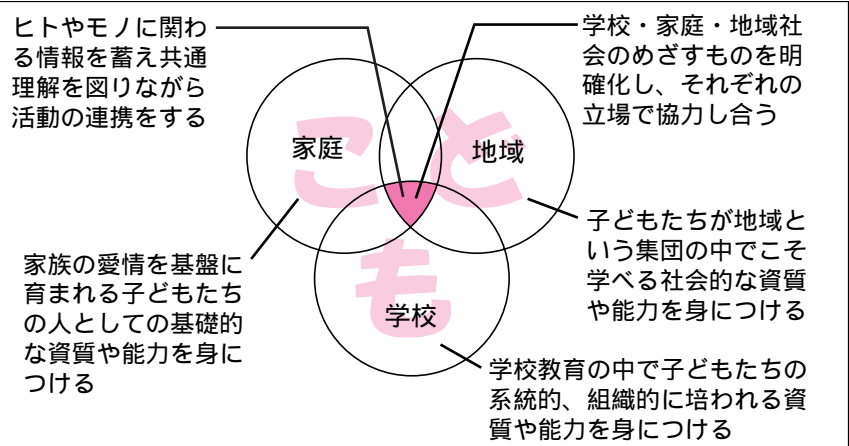
今後学校は、地域・家庭を「総合的な学習」における大切なコミュニティパートナーとして位置づけることが必要ではないかと考えます。そのためには、学校は、子どもたちの教育に関して地域や家庭の要望や願望などの状況を的確に把握し、また地域や家庭は、学校の教育方針を理解しながら、お互いに協議して三位一体の教育を進めていくことが重要になってくると思われま

そして、2002年からは、「学校週5

日制」も完全実施され、子どもたちの学習のフィールドは学校の外に求められる時間が多くなってきます。そのような状況のもとで「総合的な学習活動」を行う上では、地域の人々の協力を得ながら、家庭・地域と学校が一体となって子どもたちを育ててゆくこと、そして、次代を担う子どもたちを地域社会全体で「生きる力」(自分で問題・課題を見つけ、自ら学び、自ら考える力)を身につけていく取り組みが大切ではないのでしょうか。

こうした観点から今回第三中学校で

行われた事業は、学校・家庭・地域が三位一体となって取り組めた大変意義のある事業でした。今後、この素晴らしい事業の学習成果を多くの学校や家庭、地域にフィードバックしていく必要があります。フィードバックすることによって学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを支えていくことの大切さやすばらしさというところに気づくのではないかと思います。コミュニティが学校を支え、学校がコミュニティをつくるという時代ではないのでしょうか。



「学校・家庭・地域」三位一体での連携の考え方

本紙『やっさもっさ』は、1月から11月まで毎月1回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。

やっさもっさは資源保護のため再生紙を利用しています。